

NST (nutrition support team: 栄養サポートチーム) の目的は、栄養状態や栄養管理の評価、栄養管理の必要な合併症の予防や早期治療などによって、早期退院や社会復帰を促すことである。そして、栄養管理方法の相談業務や指導を行って組織員の知識の習得を図り、啓発することにある。すべての治療の基盤である栄養管理に対する理学療法士の知識と積極的関与が求められている。運動負荷をかける理学療法士は栄養についてどのように考えるべきか迫った。

■ 栄養と栄養管理 (合田文則, 他論文)

栄養は生命を維持する根幹であり、適切な栄養管理は、リハビリテーションに限らずすべての医療の基盤である。不適切な栄養管理は、体内のあらゆる機能を低下させ、治療の効果を発揮できないばかりでなく、栄養障害に伴う合併症を併発することになる。リハビリテーションの効果を最大限発揮するためには、栄養と運動のバランスが必要である。本稿では栄養と運動の関係および基本的な栄養管理について概説した。

■ 低栄養状態患者と運動療法 (伊藤彰博, 他論文)

脳卒中患者に対する栄養療法は、NST の普及によって今、大きく変わろうとしている。特に急性期病院では、絶食の功罪が浸透し、早期経腸栄養や早期胃瘻造設が積極的に実施されるようになってきた。しかし、身体機能回復を目指した栄養管理に関しては未だ多くの問題点が残されており、早急に代謝学的な見地から適正栄養管理法を確立することが必要であり、適切な NST 活動が今後重視されるものと思われる。

■ 経腸栄養および胃瘻患者の生活と理学療法 (平賀よしみ, 他論文)

栄養摂取の重要性が認識されるとともに、嚥下障害患者に対する代替栄養療法としての経腸栄養、特に胃瘻造設者が非常に増加している。本稿では、経腸栄養法として対象者の多い経鼻経管栄養、胃瘻における基本的知識、適応、利点・欠点について述べる。また症例として、球症状から発症した ALS 患者に対する胃瘻造設を通じ、チーム医療、造設のタイミング、栄養状態維持の重要性について述べる。

■ 慢性心不全における栄養管理と運動療法の関わり (飯田有輝, 他論文)

進行した慢性心不全患者では極度の低栄養状態である「心臓悪液質」がしばしば存在し、生命予後に影響する独立因子として疾病管理上問題となる。心臓悪液質には炎症を基盤とした異化亢進状態が関与しており、このような病態および栄養管理の理解と把握は今後運動療法を施行する際の必須事項となる。本稿では、慢性心不全の病態と心臓悪液質の発生機序を中心に、栄養管理と運動療法との関わりについて基本的な考え方を述べる。

■ NST 活動と理学療法士 (原島宏明, 他論文)

当院では、2005 年 10 月より急性期病棟入院中の経口摂取可能な低栄養患者を対象に、独自の低栄養スコアを用いて NST 活動を実施している。また翌 4 月からは対象を回復期リハビリテーション病棟に広げ、在宅復帰を視野に NST を展開している。本稿では当院の理学療法士と NST との関わりを紹介すると共に、理学療法を実施していく上で指標となる検査値を症例と共に紹介する。